

「学童保育と作業療法士の連携」～子どもたちの「できた！」を増やす～ (案)

講師：伊藤美保子さん（藤田医科大学 医療科学部 リハビリテーション学科・作業療法士）

糸山智栄さん（岡山県学童保育連絡協議会 会長）

世話人：谷口 雅子（津島市OB）

発表者：石原 峰子（津島市たんぼぼクラブ指導員）

作業療法士は、日々の「困った！」を「できた！」の笑顔に変えるプロフェッショナル！

放課後を学童保育で過ごす子ども達にとって、その時間は「日々の暮らし」の一コマであり、そこでの経験の積み重ねが、成長・発達に大きな役割を果たしています。

その「日々の暮らし」の中には、「困った！」場面はよくあります。

「うちの子、どうしてこうなんだろう・・・」「あの子はどうしてあんなるんだろう・・・」
言うことを聞かない、落ち着きがない、集中できない、状況を判断できない、ほかの子が簡単にできることができない・・・。

そんな子どもの「困った！」は、実は少しの工夫ですと軽くなるかもしれません。

そのヒントをくれるのが「作業療法士」です。

作業療法士は生活と遊びを通して、子ども達の成長と発達を支援します。

指導員は研修などで一定の知識は学ぶものの、目の前の子どもの言動の受け止め方や保育実践が、自分たちの見立てでよいのかどうか不安を感じていることも少なくありません。

この分科会では、作業療法士の視点や活動内容の講義と、作業療法士に直接現場の子ども達の生活を見てもらった上で指導員と一緒に支援策を考える「コンサルテーション」の実践報告を中心とし、質疑応答、各地域との交流もしながら、具体的な支援の方法を学ぶ時間にしたいと考えています。

またこの分科会を通じて、学童保育と作業療法士がお互いを知り、繋がっていくきっかけとなることを願っています。

うちの子やあの子の「困った！」を一緒に考え、学んでみませんか。みんなが「できた！」と笑顔で過ごすために。